

第2回 福岡市及び近郊における周産期医療連絡会議 議事要旨

- 日 時 平成22年12月13日(月) 18時30分から
 - 場 所 福岡国際ホール 大ホールA
 - 出席委員 福岡市医師会 平川委員, 福岡県産婦人科医会福岡ブロック会 長野委員, 九州大学病院 福嶋委員, 福岡大学病院 小濱委員・太田委員, 九州医療センター 久保委員・佐藤委員, 福岡徳洲会病院 窪田委員, 浜の町病院 片岡委員・黒木委員, 福岡赤十字病院 西田委員・曳野委員, こども病院・感染症センター 月森委員・高畑委員, 福岡市保健福祉局 恒吉委員
[オブザーバー] 福岡赤十字病院 梅津(産婦人科)部長, こども病院・感染症センター 福重院長, 福岡市消防局, 福岡市立病院機構本部事務局
-

議題1 周産期医療機能に関する調査結果について(報告)

- 調査結果について, 事務局及び各病院より説明を行った。
- 各病院からの説明内容や修正点等について, 事務局で反映させることを確認した。

議題2 福岡市立こども病院・感染症センターにおける周産期医療整備に関する要望書について(報告)

- 平成21年9月に福岡県産婦人科医会福岡ブロック会及び福岡市医師会から市に出された, 「福岡市立こども病院・感染症センターにおける周産期医療整備に関する要望書」について, ブロック会会長の長野座長より説明を行った。

<議題2に関する主な意見>

- 全ての問題を, 周産期だけに特化してこの会議の中で考えていくのは難しいので, 棲み分けを考える必要がある。この会議では, 特に病病連携, 病診連携などについて発展的な議論をしていきたい。
- こども病院では, 先天性心疾患の患者を数多く治療しているが, 生殖年齢に達した患者から, こども病院で出産できないかという声も出ており, その対応のためにも, 現場としてはこども病院にMFICUを設置した方がいいと思っている。
- MFICUには, 医療機能としてのMFICUと診療報酬加算上のMFICUがある。機能としてのMFICUを先に考え, 加算については, そのときの状況次第で現実的な対応が必要である。
- 周産期というと産科に限った話になるが, 一方で同じマンパワーで同じ量の婦人科診療に対応している。婦人科専任の医師が産科を兼任している状況では, 母体合併症など難しい症例の患者が急変したときなどに対応できない場合がある。
- 婦人科救急で来る患者は救急の患者ばかりではなく, それを選別できるかが問題である。
- 婦人科救急への対応については, 各施設の役割に応じて分担する必要がある。
- 産科の救急, ハイリスク妊娠・分娩, 正常妊娠について, 限られたキャパシティのなかでどう振り分けていくかのシステムづくりが必要。
- 労働環境に配慮した適正な人員の確保, 若い人材の育成が必要である。
- 小児科の場合は, 急患センターで開業医と勤務医と大学が一次を分担する仕組みがあるので, 産婦人科でもそういう形があるといいと思う。

- 小児科医師のマンパワーや施設の問題で、産婦人科では母体の対応ができて、小児科の方で新生児の対応ができず、母体の受入をお断りすることも多い。
- 小児科の中の新生児科は専門性が高く、特化している部分が多いが、新生児科医が不足しているため、週に数回は新生児医療に不慣れな小児科医師が NICU 当直を担当している現状がある。三次施設では、本来は新生児科医だけで NICU 当直を担当すべきであり、新生児科医の増員が不可欠である。
- 医学卒業生の 5%弱が小児科医を目指す状況の中で、新生児科医はさらにその 1/10 という状況がある。
- 重症心身障害児施設では、長期入所の人は一切受け入れられないのが現状であり、施設を増やしてもまたすぐに満床になってしまうだけだと思う。後方支援施設が、ハイケアをそのまま引き継ぐ施設なのか、在宅医療になる方を短期入所で受け入れる施設なのか、長期入所で家族の支援もない方の施設なのかなど、整理して考えていく必要がある。
- 重症患者の受入ができず、県外に送らざるを得ない場合に対応できるシステムが必要である。

議題 3 福岡市及び近郊における周産期医療の課題と対策（案）について

- 前回の協議内容をまとめた資料について、事務局より説明を行った。

<議題 3 に関する主な意見>

- それぞれの病院の特性も踏まえながら考えていく必要がある。婦人科救急に関する問題については、ここに集まっている以外の先生方も含めて、何らかの対応策を考えないといけない。
- 一次医療機関についても底上げをしていく必要があると考えている。
- P4(2)新生児部門における課題に挙げられている、小児科医師のマンパワー不足、オーバーワークは付随的なもので、新生児科医の仕事をしている新生児科医の不足がもっと上の問題である。
- 救急体制について議論する場として様々な協議会があるようだが、どのような協議会があるのか教えてほしい。
- 長期入院患者への対策として、後方支援施設の問題が解決しなければ、周産期医療に関する課題の解決は難しいだろう。